

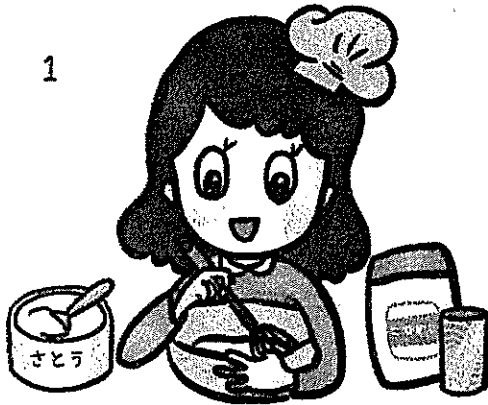
Scone

スコーン

材料(2人分)

薄力粉…80グラム
 砂糖…おおさじ1
 ベーキングパウダー…小さじ1/
 豆乳…おおさじ3
 油…おおさじ2
 酢…小さじ1/2

1



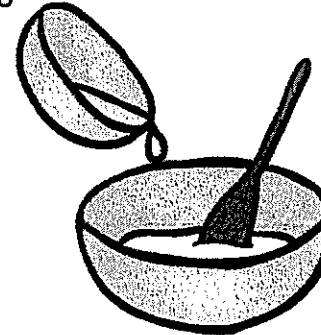
ボウルに薄力粉、砂糖、ベーキングパウダーを入れてあわだてきで混ぜる。

2



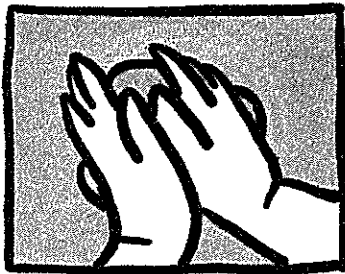
お皿に、豆乳、油、お酢をいれて、トロットするまでフォークで混ぜる。

3



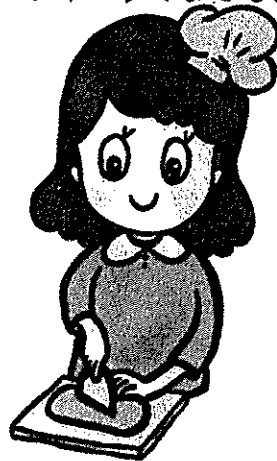
②を①にくわえてゴムベラで混ぜ、ひとまとめにする。

4



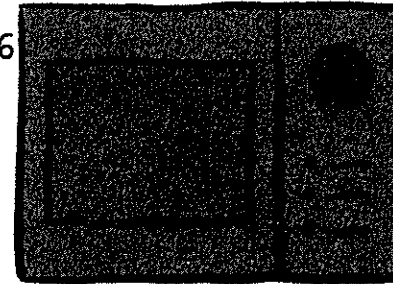
手で、ひとまとめにしたら、生地を20センチほどの四角にのばす。

5



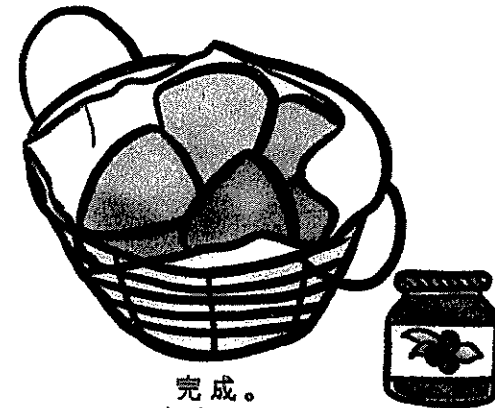
ナイフやスクッパーで好きな形にきる。

6



200度に余熱したオーブンで13分やく。

7



完成。
お好みでジャムをのせる。

令和元年7月吉日

<家庭数>
PTA会員の皆様

世田谷区立山野小学校
PTA会長 佐谷 恭
家庭教育学級委員長 羽村 ひとみ

令和元年度 第一回家庭教育学級開催報告書

盛夏の候、PTA会員様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度第一回家庭教育学級を去る6月24日に開催いたしました。

講師にリトルシェフクッキング(株)代表取締役であり、子ども料理研究家で2児の母でもある武田昌美先生をお招きし、『～料理で子どもの人間力を養う～AI時代に生き残る子どもを育む方法』というテーマのもと、これから訪れるAI時代を、子どもたちが生き抜くために必要な『人間力』について、講演していただきました。

当日は50名程の大勢の方がご参加くださいました。

下記に内容の一部をご紹介します。

『～料理で子どもの人間力を養う～AI時代に生き残る子どもを育む方法』



講師の武田先生は、区内で、2歳児からを対象とした子ども料理教室を開講しておられます。

冒頭では、先生より「私は、子どもたちに料理を通じてどのように『人間力』というものが育っていくか、料理をすることで、子どもたちがどんなことに気づいて・どんなふうな大人に成長する手助けができるかを一番大切にしています」とのお話がありました。

- ・AI時代を生き抜くために必要な『人間力』=将来AIに勝つために必要とされる能力
- ・AIが持っていない能力=人間が持っている人間独自の能力

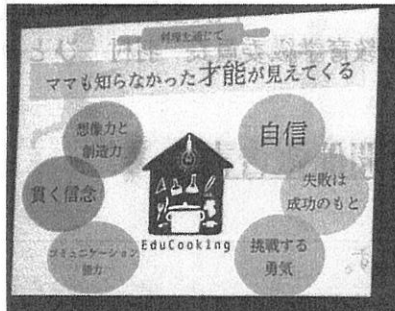
子どもの将来の豊かさを左右する6つの「人間力」

①『自信』②『失敗から転じて良いものに変える力』③『挑戦する勇氣』④『諦めず自分の思いを貫く強さ』⑤『想像力と創造力』⑥『コミュニケーション能力』

この6つの「人間力」こそが、子どもたちが将来幸せになるために絶対不可欠なマインドとなってくる。このマインドは今日明日で培えるものではなく、子どもが大きくなるまでに、日々培っていく必要がある。「あなたならできるよ」と1%の可能性でも親が信じ、子どもに声をかけ続けてあげる事が大切。

私たち母親にこそできる、料理を通じた「6つの人間力」の育てかた

『毎日の料理を通じて、子どもたちの人間力を育てることができる』



武田先生は、この料理を使って人間力を育てるということ、「cookingとeducation」この2つを掛け合わせて、「educooking (エデュクッキング)」と呼んでいらっしゃいます。

●なぜ料理というツールが良いのか？

料理は毎日できて、母親が教えることができる＋料理は子どもたちが大好き。

この2つを掛け合わせることで、しっかりと子どもたちに向きあうことができる。

●料理を通して「人間力」を育てる母親の声かけの例

「あなたはできるよ、大丈夫」「できたね！」＝子どもたちの自信（自己肯定力）

失敗した時は別メニューに変えてフォロー「(例)途中で卵を半分こぼしてしまった・・・チーズケーキの材料から〇〇ちゃん特製プリンが作れたね」→失敗は失敗でなく、何かを生み出すチャンスなんだ！と子ども自身が気づく＝失敗は成功のもと、という心

「(例：スコーン作りで)色んな形があって、すごく面白いね！」＝「想像力と創造力」

●一緒に料理をする中で、ヤケドやケガの「危険性」も教えることができる。

包丁の使い方を知らないまま、大人になったほうが危険。

小さいうちから「失敗を恐れずに挑戦できる環境」を作っておけることが必要。

最後には、子どもと一緒に簡単に作れるスコーンのレシピの紹介と試食もありました。

また、質問のコーナーでは、

「忙しい毎日でも子どもと一緒に料理をするコツはありますか？」「何か子どもにオススメの調理道具はありますか？」などの質問があり、皆さん熱心にメモを取っていらっしゃいました。



<参加者アンケートより>

- ・料理を子どもとする際、つい出来栄えや、成功するかにこだわり口を出しがちだったので、「失敗にこだわらない」ということが、大変勉強になりました。
- ・日々の慌ただしい生活の中でも実際に取り入れられる素敵な話でした。
- ・子どもへの声かけを見直して、子どもと楽しみながら料理ができたら良いなと思いました。
- ・身近な料理から「自分はできるという自信」を育む、という考え方にとっても共感しました。
- ・初めて家庭教育学級に参加して、とても役立つ話でびっくりしました。

★次回の家庭教育学級は、10月10日(木)成城ホールにて開催予定です。